

議事録（要点）

- 委員会名 下関市指定管理候補者選定委員会（下関市民会館）
- 開催日時 令和2年（2020年）10月9日（金）
午前10時から午前11時55分まで
- 場所 下関市民会館 中ホール
- 出席者 <委員> <事務局>
柳純委員 和田部長
村田鮎子委員 大園課長
五十嵐美紀子委員 岸本主幹
金子聡委員 玉里課長補佐
中野貴広委員 藤上主任主事
樫元主事
- <申込団体>
公益財団法人下関市文化振興財団
- 内容
1. 開会
 2. 委嘱状又は任命書交付
 3. 部長挨拶
 4. 指定管理者制度等の概要説明
 5. 委員長選出
 6. 委員長挨拶
 7. 諮問
 8. 申込要項等の概要説明
 9. 審査基準及び最低制限基準の決定
 10. 申込団体によるプレゼンテーション・ヒアリング
 11. 採点
 12. 審査結果報告
 13. 閉会

1. 開会

2. 委嘱状又は任命書交付

任期：令和3年3月31日まで

3. 部長挨拶

4. 指定管理者制度等の概要説明

下関市民会館の指定管理者の選定については、広く一般に公募することが適さないと判断し、非公募による単独指定とする。

下関市文化振興財団は、市民会館を管理運営するために設立された市の出資団体であるため、開館当時から40年以上、管理運営を行っている財団以外で公募することは不相当であり、現在の指定管理者である財団を指定管理候補者とするのが適当であるため。

5. 委員長選出

委員の互選により、柳委員が委員長となる。

6. 委員長挨拶

7. 諮問

8. 申込要項等の概要説明

下関市民会館は、市民の文化の向上と福祉の増進を図るために設置されている。

その設置目的を達成するため、申込要項に管理運営の基準や指定管理者が行う業務を細かく指定した。それに対し、業務への取り組みと過去の実績などが提出され、申込みを受け付けた。

9. 審査基準及び最低制限基準の決定

審査は、各委員100点満点で評価。

●指定管理候補者とする場合

以下の全てに該当する場合、指定管理候補者とする。

- ・各委員の評価点の合計の平均が（60点）以上
- ・委員の過半数の採点が60点以上
- ・審査項目で、各委員の評価点の合計が「0点」の項目がない

●再提案を受ける場合

以下のいずれかに該当する場合、再提案を受けることとする。

- ・各委員の評価点の平均が最低制限基準点（60点）未満
 - ・委員の過半数が60点未満の採点
 - ・各審査項目で、各委員の評価点の合計が「0点」の項目がある
- ※再提案は、後日、委員会を再度開催し、審議する。

10. 申込団体によるプレゼンテーション・ヒアリング

- ・公益財団法人下関市文化振興財団によるプレゼンテーション実施
- ・ヒアリング内容

委員 A 「地域的優位性を活かした文化エリアの拡大については、体制を含めてどのように進めていくのか。」

財 団 「北九州地区（門司、小倉、八幡等）へ情報を適時ポストインにより発信している。」

委員 A 「申込書にある指定管理料の収支計画の中で、その広報の経費は入っているのか。」

財 団 「指定管理料の一般財源とは区別している特別会計の中で広報をしているので、入っていない。」

委員 B 「目標が、前年度利用者比の1%増加で、計画どおりいけば5年で5%増加となる。この数的な根拠はあるのか。」

財 団 「ない。今はコロナ禍で今年行う予定だったことが、中止若しくは延期になっている。例年の利用者からは、来年公演が出来るようになったら是非行いたいという希望が非常に強いので、だいたいこのくらいの数字にはなるのではないかと示している。」

委員 B 「コロナ禍の中で先が見通せないが、それを見越した上で事業を行っていかねばいけないと思う。今後でも教えていただければと思うが、どうか。」

財 団 「国の政策として、8月19日から開館の指針が変わり、一部では収容人数の100%に近い事業を行えるようになっている。また、GoTo イベントというものが示されており、そのような国の施策を活用しながら楽しんでもらえる事業を企画したいと考えている。」

委員 C 「決算報告書の報酬は役員報酬か。」

財 団 「役員報酬も含まれるが、嘱託職員の給料も報酬となっている。」

委員 C 「給料は正職員か。」

財 団「はい。」

委員 C「提案には含まれているか。」

財 団「提案には、嘱託も職員も含んでいる。時間外手当、住居手当、諸手当も含まれている。」

委員 C「令和元年度決算報告書は給料が落ちているが、人員削減か。」

財 団「平成30年度末に、正職員6名が定年退職を迎えたため。」

委員 C「全体的には人数は変わっていないのか。」

財 団「変わっていない。」

委員 C「令和2年度の予算書では報酬を下げていない。今、コロナで収益が見込めないような状態だが、削減は検討しないのか。」

財 団「人力的には変える予定はない。」

委員 D「ニーズを把握するために、SNSを利用しているのか。」

財 団「SNSは情報発信で使っており、情報の吸い上げは出来ていない。ただ、来場者、利用者には常にアンケートを取っている。また、財団で文化事業協議会を開催し、各方面で活躍されている市民の方に委員になっていただいております、そこからも情報やニーズを取り入れている。2020年のこどもクラシックもその1つ。」

委員 D「放送局やCS等で、県内の周南、防府、宇部等での催物の宣伝・CMが流れるが『こういうイベントやアーティストが下関にきてほしい』と思うものが多い。そんな人やものを呼べないのか。」

財 団「周南市文化会館がテレビ露出が多く、有名なアーティストの公演が多いのは、広島と福岡の中間にあるため。また、下関市民会館より400席程収容人数も多く、儲けが増えるので、周南での開催が多くなる。」

委員 D「近隣の文化施設と連携して、何かイベントをしたことがあるか。」

財 団「宝くじの文化事業では県内2館で連携して開催が条件のものがある。過去には萩の市民会館、ルネッサ長門、山口市民会館等と連携して実施している。他にも公立文化施設協議会があり、山口県内の公立文化施設が一同が集まるので、そこで情報交換や連携を組んでいる。」

委員 D「生涯学習プラザや中央図書館をはじめ、他の市の施設とのコラボ・連携の経験があれば教えてほしい。」

財 団「今年度で言えば、生涯学習プラザでのこどもクラシックは、財団で企画をし、使用する会場を市民会館か生涯学習プラザかをキャパシティを考えた上で選択した。」

委員 A「指定管理と自主事業の業務の2つの側面をもって事業を進めていると

思うが、その中で自主事業分については収支がゼロなのか。」

財 団「指定管理料は、当然収入を超える支出は出来ないが、自主事業の特別会計は極端に言うと、儲かれば高い公演ができ、それにつれて収入も上がるため、事業費が上がったり下がったりする。」

委員 D「入場収益で、決算書は平成 29 年度が多いが、これは平成 29 年度が特別だったのか、平成 30 年度、令和元年度が落ち込んだのか、どちらか。」

財 団「その年で行う催物の内容によっても、かなり変わる。例えば NHK 交響楽団の公演等では、チケット代が 1 枚 1 万円を超え、チケット収入だけでも何千万という額になる。テーマによっては催物が多くても、収入は増えないこともある。そのように内容によっても変動があるので、一概に公演の数が多かったのかというと、そこは一致しない。」

1 1. 採点

1 2. 審査結果報告

各委員の評価点の合計 398 点

各委員の評価点の平均 79.6 点

60 点以上の採点をした委員 5 名（過半数を達成）

審査項目で、各委員の評価点の合計が 0 点の項目はなし

結果：公益財団法人下関市文化振興財団は、下関市民会館指定管理候補者として適切である。

1 3. 閉会